月　日 名前　　／100点

【小3】国語 文章問題　物語文 2

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

うんどう会のリレーで、ぼくはアンカーだった。前の走者は、クラスでいちばん足のおそいゆうきくんだ。

スタートの音がなった。ぼくたちの組は、はじめは二番だった。でも、ゆうきくんにバトンがわたったとき、うしろの組にぬかれて、三番になった。

ゆうきくんは、顔をまっかにして走っていた。うでを大きくふって、歯を食いしばっている。それでも、前の組との間は少しずつ広がっていった。

「はやく、はやく。」

ぼくは心の中でさけんでいた。バトンを受け取る場所で足ぶみをしながら、手をのばした。

そのとき、ゆうきくんがつまずいた。ころびそうになったけれど、手をついて、すぐに立ち上がった。そして、また走ってきた。ひざから、少し血が出ていた。

ぼくは、さっきまで「はやく」と思っていた自分が、急にはずかしくなった。ゆうきくんは、ころんでも止まらなかった。自分にできるいちばんのはやさで、ぼくのところまで来てくれたのだ。

バトンを受け取ると、ゆうきくんの手のあたたかさが、バトンにのこっていた。

ぼくはむちゅうで走った。一人ぬいて、二番でゴールした。

ゴールのあと、ぼくはまっさきにゆうきくんのところへ行った。

「ありがとう。あのバトン、すごく重かった。」

ゆうきくんは、ひざをおさえながら、ふしぎそうな顔をした。それから、うれしそうにわらった。

（この問題のための書き下ろし）

問一　前の走者のゆうきくんは、クラスでどんな子ですか。本文から十字までで書きぬきましょう。

問二　「ぼくは、さっきまで『はやく』と思っていた自分が、急にはずかしくなった」とありますが、それはなぜですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　ゆうきくんが、ころんでも止まらずに、いっしょうけんめい走ってきたのを見たから。

イ　ほかの組の人に、ぼくの声を聞かれてしまったから。

ウ　ゆうきくんが、ぼくのことをおこっていたから。

問三　バトンを受け取ったとき、バトンに何がのこっていましたか。本文から十五字までで書きぬきましょう。

問四　ぼくが「あのバトン、すごく重かった」と言ったのは、どんな気持ちからですか。三十五字までで書きましょう。